

研修報告書 No.27

所 属：東京大学医学部附属病院

研修先：土佐市民病院

氏 名：中原 千尋

私は地域医療研修として、高知県において 1 か月間研修を行いました。都市部とは医療資源や患者背景が異なる現場に身を置くことで、地域に根ざした医療について学ぶ、貴重な機会となりました。

私がお世話になった土佐市民病院は二次医療機関に位置づけられていますが、外来診療においては感冒や生活習慣病に対する定期処方など、一次医療的な役割を担う場面も見られました。都市部では医療機関間の役割分担が比較的明確であることと比べると、限られた医療資源の中で柔軟に診療を行う体制が特徴的であると感じました。高知県は県民人口に対して医師数が比較的多い地域であり、現在の診療体制であっても医療が過度に逼迫せずに機能している要因の一つではないかと考えました。

また、長期間通院している患者さんも多く、医師や医療スタッフとの間に、既に信頼関係が構築されている場面が多くありました。中には医療者と患者さんが顔見知りの場合もあり、地域社会との距離が近いことを実感しました。疾患そのものだけでなく、患者さんの生活背景を踏まえた診療が自然に行われており、地元住民に寄り添う医療が実践されていると感じました。

研修内容については、外来診療、病棟業務、救急対応のいずれにも満遍なく関わることができ、非常に充実した研修となりました。医師同士のみならず、医療スタッフとの距離感も近く、常に相談しやすい環境が整っていました。日頃から診療方針や患者対応について気軽に意見を伺うことができ、多くのことを学ぶことができました。

外来対応については、臨床研修中に行う機会は限られているため、今回の経験は非常に貴重であったと感じています。鑑別疾患を意識した医療面接・身体診察の進め方、上級医への報告方法や適切なタイミング、診断がつかない場合のフォローアップの考え方など、今後の臨床に直結する実践的な学びを得ることができました。大学病院では既に診断済み、もしくは方針が決まっているなどのことが多かったため、自力で診断を付けるということがほとんどありませんでした。今回の外来研修で印象的だったのは、扁桃に白苔が見られた患者さんに対して、溶連菌性咽頭炎と診断し、抗菌薬処方まで主体的に行えたことです。それ以外にも、診断から治療まで主治医として関わることで、今後診療していく上での自信に繋がりました。

診療の合間には、患者さんや医療スタッフの方々から美味しいお店やお土産、週末に訪れた方が良い観光スポットなどを教えてもらうこともあり、全体を通して和やかな雰囲気を

感じました。こうした雰囲気が、相談しやすい環境の形成にもつながっているのではないかと思います。

この 1 か月間で、診療においても私生活においても、普段はできない経験を沢山することができました。今回の研修を通して得た学びを、今後の診療においても積極的に活かしていきたいと考えています。